

# 飯野町の巨石探訪



超歴史研究会 皆神 隆

## 千貫森（右）と一貫森（左）

福島県福島市飯野町は、福島市街の東南16kmに位置する面積21.31平方キロ位の小さな町であるが、その北方にある「千貫森」という山は、近年UFOの出現する山として全国的に知られるようになった。しかしながら、その「千貫森」の周りに多くの巨石が存在することは殆ど知られていない。「千貫森」は標高462.5mの円錐形の美しい山で、かつては奥州街道を行く旅人の目印とされ、「峠山」、「たんがら山」などの名で親しまれているが、「古代のピラミッド」ではないかという説もある。紀元5世紀頃、大和朝廷では32代崇俊天皇が蘇我馬子に殺されるという政変が起きた。天皇

の後「小手姫」は、蝦夷へ逃れ我が子「蜂小皇子」を探すためにこの地に至り、持参した蚕種（当時は皇族のみが持っていたという）をもとに織物を地元に教えること

により蚕業を起こした。人々から尊敬された小手姫はその後多くの人達の力を借り、土を盛り高台に天皇の形見の品を埋め、陸としたのが「千貫森」で、西側に同形の遥拝所を造ったのが「一貫森」という説がある。

さて、周辺の巨石遺構は、この「千貫森」を中心に配置されているようであり、その各所から「千貫森」を望むことができる。まずは「クジラ石」である。近くの立て札には、「松尾山一円寺説法石」とあるが、一円寺を開山した日尊上人がその昔、東国を弘通（ぐつう）していた頃、暫く此の地（立子山）に止住した。山中、樹下の石上で毎日、大説法を演説し、村民を化度（けど）した。そして上人の法義を尊信し、改宗をし、説法を拜する者が少なくなかった。ここに於いて上人と檀家の人々が協力して遂に一字を建立し、一円寺と号したという。古来、その石を称して「説法石」という。石の



クジラ石

の上に立っている石碑は、日尊上人を慕って霊石跡を後世に伝えるために天保11年（1840）に建てられた標石である。

傍らに銀杏樹があり、これを「開山木」という。以上のような由来の石であるが、今ではその形から「クジラ石」と呼ばれている。石

散策すると、続いて「高木大石」に出会うことができた。道路の近くに静かに佇む巨石である。表面に割られたような痕跡が残っており、

り、調査の結果、石垣に使用されたことが判明したという。以前はもっと大きな石であったであろう。さらに民家の裏側や大石の真上の山中にも巨石があり、この三つの巨石が方位を示しているように南

北に直線上に並んでいる。さらに「岩塚」と称される巨大な石が我々を待っていた。ここは明らかに信仰の場として古くから祀られていたと思われる。この巨大な石の上には稲荷神社が祀られており、巨石の根本には狐の穴がある。頂上の周囲には足尾山、猿田彦大神、山祇神、己待信心塔、日吉神社、三日月供養、天熊人神祭印、道主貴神祭霊馬頭観音等があり、また岩の割れ目には文殊菩薩が祀られている。その他、200塔にもおよぶ庚申塔が並んでいて、信仰の深さが伺える。



高木の巨石

そして、もう一つの巨石は、単に



岩塚

「大石」と呼ばれているが、この石は「飯野町巨石マップ」には載っていない特別な石である。石の

上には階段が造られ、石碑が祀られている。ここからも「千貫森」が望まれ、辺りは広場となっている



大石

と称する。この場所が館跡ではないかということが判明した。現在では公園化されて、桜の名所として春から秋にかけて多くの人の憩いの場として親しまれている。

ら、とかるこ  
「千貫森」を望む高台にある留石公園にも幾つかの巨石が存在す

る。まずは公園の名前にもなっている「留石」。米沢藩の60余年にわたる長い支配が終わり、信達両郡が幕府直轄領となつて寛文4年から代官の支配となつた。福島代官の国領半兵衛は、寛文11年(1671)3月から延宝2年(1674)10月までかけて信



**留石**

星座を示しているのではないかと  
いわれている。この山林は大桂寺の所有となつていて、以前はこの山裾に大桂寺があったという。「モアイ石」の近くには一段低い窪みがあり、そこは大桂寺の和尚が修行をした場所であるという。この石の裏側の空間には小さな祠が祀られている。

公園内の他の巨石たちを紹介しよう。「千貫森」と「一貫森」がよく見える場所には、「モアイ石」と呼ばれる石がある。イースター島のモアイに似ている人面岩で、その上部には幾つかの杯状穴があり、

さらに山中の高石地区の竹林内には巨石群があり、大きな岩が6個あるが、そのなかでも特に巨大

な石を「高石の大石」と呼んでいる。その前面には棚のような平面があり、そこには稻荷神社が鎮座し、久能家の氏神として祀られている。祭壇のような構造は人工的

に造られたものであろうか。いずれにしても、ここにも古代からの信仰の断片が伺える。



**モアイ石**

もうひとつは、「ドルメン山の  
大石」である。その由来について  
定かではないが、尾根の上にひと  
りぼつんと佇んでいる。公園内  
は他に「行灯石」なる石もあり、  
このなかを散策するだけでも充分  
に楽しめる、石好きにとっても、  
まさに憩いの場である。



高石の大石



ドルメン山の  
大石

ここに一枚の古図面がある。「赤  
岩稲荷神社絵図面」である。大久  
保の字赤岩山地区内に稲荷神社が  
鎮座し、「赤岩稲荷」と呼ばれ親し  
まれている。  
その昔、八幡太郎義家が木幡山(東  
和町)から石を投げて、落ちたと  
ころがここ赤岩山であるという。  
その石が落下して岩に当たったと  
きに大きな火花が出て、あたり一  
面の岩が赤く輝いたことから、「赤  
岩」と呼ぶようになったと言われ  
ている。この赤岩山一帯は巨石が  
重なってできており、地下深くは  
巨大な岩盤になっているのが確認  
できる。昭和37年から43年ま  
で、町道の維持管理に敷き砂利を  
生産するために、ここに町営の砕  
石場が置かれた。そのとき一部の  
巨石は破壊されてしまったという。  
現在では、外見では石の存在が殆  
ど判らない状況となっているが、  
かつては遠方からもその岩々の姿  
が見られたものと推察される。鳥  
居の手前にあるのは、「白蛇石と呼  
ばれる石である。

學四區岩代園伊達郡大久保村  
 赤岩神社繪圖



赤岩山 41



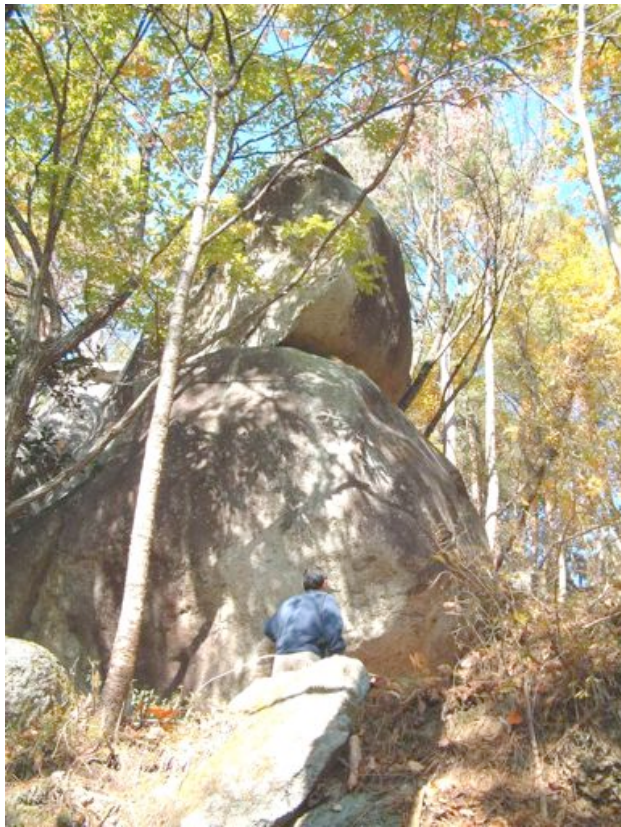
社殿裏の石組

神社の社殿の後ろには累々と石が重なり、その間に小さな祠が祀られている。山頂手前には人工的に積み上げられたと思われる大石があるが、その石の上部には、玉石の穴があり、昔はそこに玉石が入っていたと、この古図面には記されている。これが古代の光通信

の証拠となるのか、今ではその玉の所在は定かではない。

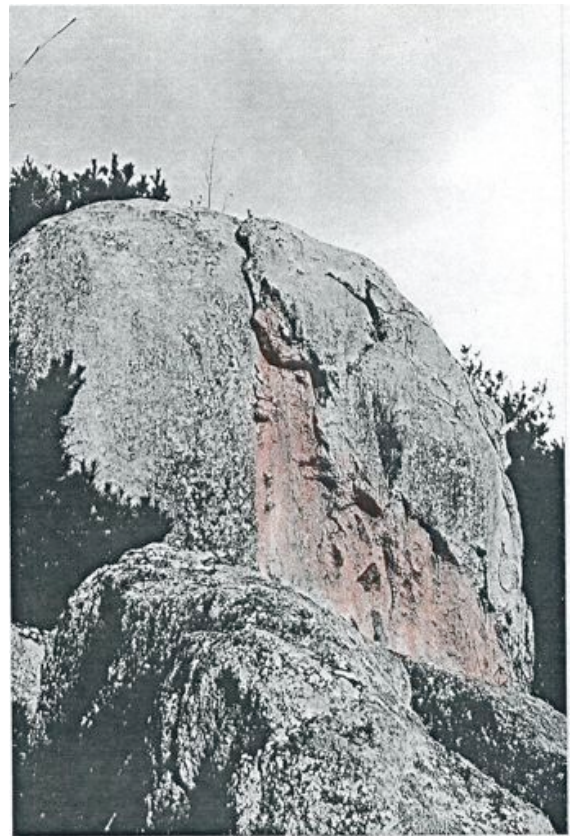
ここで我々は、貴重な情報を入手した。山頂の裏側にかけてあったという「赤岩」の写真である。その割れた部分が赤い色をしていたというこの岩は、採石のために破壊されてしま

ったという。実はこの岩が正しく「赤岩」と呼ばれていた岩な



大石（石組？）

飯野町の阿武隈川の右岸、女神川との合流点近くの舌状台地で、「和台遺跡」という縄文時代中期末葉の集落跡が発掘された。調査によると、  
 竪穴式住居跡 238軒、掘立柱建物跡 24軒、埋甕約 130



真の「赤岩」

のである。

基、土坑約2650基が確認されている。集落の中央には直径25mの広場があり、その周囲に掘立柱建物跡が巡り、さらにその外側の台地の縁辺部に竪穴式住居跡が配置されている。

遺物では人体文土器と狩猟文土器が注目されるが、写真の人体文土器は、残存高32cm、直径28cmで、胴部の膨らみ部分には帯状にスス状の炭化物が付着している。発見されたときは、住居床にすっぽり埋められており、この状態で土器外部から火を受けることは不可能であることから、ススはそれ以前に付いたものと推測されている。祭祀や儀礼などに使用された後に何らかの理由で炉に転用されたものと考えら

れている。人体文は身長20cm、両腕の端間12.5cm、両腕の先端部と両足の足首にあたる部分は、どちらも7mmほど隆起している。また1.3cmほど盛り上

がる鼻は非常に印象的で、やさしい眼差しや、何かを語りかけてくるような口元とあいまって、高い芸術性を感じさせられる。この「人体文土器」は非常に貴重な遺物で



和台遺跡出土「人体文土器」

あることから、今年開催された大英博物館の「土偶展」に展示された。

このように、この飯野町には縄文時代から多くの人々が暮らし、「千貫森」を神山とした祭祀が行われていたものと考えられる。実際に祭祀場と思われるイワクラが幾つか存在するのは確かな事実である。そのイワクラが、いつの時代から造られ、信仰の場として用いられてきたのか？今後の調査に期待したい。

尚、「飯野町巨石マップ」は千貫森中腹にある「UFOふれあい館」にて入手可能である。しかしながら、近年の異常気象の影響で土砂崩れなどのため、残念ながら現在では訪れることができない岩もあるので注意されたい。

#### 超歴史研究会ブログ

<http://blog.goo.ne.jp/choraki>



